

マリアナ諸島から見る 日米帝国主義の歴史

グアム・サイパンなどで知られるマリアナ諸島は、日本からわずか時差1時間、飛行機で約4時間の距離にある。同諸島は、歴史的に日本などによる植民地・軍事支配を幾度も経験し、現在は米国の非（未）編入領土となっている。本講演は、アジア・太平洋戦争から冷戦期にかけて、先住民チャモロの人々が日米の植民地・軍事支配をどう生き抜いてきたのかを紹介する。チャモロの人々は、日米の戦闘に巻き込まれ多くが犠牲になるとともに、冷戦期にかけて米国による軍事化や環境汚染を経験してきた。本講演は、チャモロの人々の経験から見る日米帝国主義の歴史について考察していく。

**日 時：2025年10月22日（水）
15：20～17：00**

**場 所：明治大学 和泉キャンパス
図書館ホール**

講 師：竹田 安裕子 氏

講師プロフィール：上智大学外国語学部英語学科助教。明治大学政治経済学部卒業。米国カリフォルニア大学アーバイン校でPh.D.取得（歴史学）。専門は現代米国史。日米と太平洋諸島との歴史的関係について、北マリアナ諸島の事例を中心に研究している。



★参加無料・申込不要★
どなたでも参加可能です

コーディネーター：石山徳子
政治経済学部・教養デザイン研究科教授